

【施設のリスク情報】

サイト概要	サイト名	循環器・呼吸器病センター（埼玉県熊谷市板井字桜丘1696-1-1）
	操業開始年月	1954年2月
	職員数（医師・看護師等を含）	781 名（2026年2月現在）
	就業形態	①稼働日数：日/週②管理部門：時～時
		③製造部門：□交替なし □2交代制 □3交代制〔勤務時間：時～時 名、時～時 名、時～時 名〕
施設周囲	施設周囲	東側：埼玉県立高等看護学院（距離 15m）西側：山林（距離 5m）
		南側：民家（距離 50m）山林（距離 0m）北側：（福）全国ベーチェット協会（距離 5m）
	リスク所見	当施設は、循環器系・呼吸器系の高度専門医療を提供する病院です。病院の主要建物と隣接施設との間は一定程度離間していますが、エネルギー棟が北側の建物（全国ベーチェット協会）に近接しているため一部類焼リスクが認められます。構内主要建物は鉄筋コンクリート造、鉄骨造りです。主要建物は互いに渡り廊下で接合していますが、それぞれ防火戸によって防火区画（本館棟、新館棟、治療棟、A病棟、実験検査棟、エネルギー棟は、階段室とエレベーター）に設置された防火戸・防火シャッターによって、フロアごとに防火区画されています（縦穴区画）。さらに、本館棟と新館棟の1階・2階が面積区画されています。施設・設備の管理状況も良好で適切に維持管理されています。
防火管理	防火管理統括部署	部署名：事務局 防火管理者役職名：管理部長 スタッフ数：25 名
	専門組織・委員会	委員会名：防火・防災管理委員会 〔開催頻度：1 回/年 参加人数：25 名〕 議事録保存：■YES □NO
		〔具体的協議項目・決定事項など〕①R6年度消防年間実績について②R7年度消防年間計画について③消防計画の変更について
		〔開催日：2025年 6月 26日 〕
		消防訓練実施内容の検討
	「安全管理方針」など	□有 ■無 〔名称： 〔作成部署： 〕
	職場パトロール	名称：職場巡視（職場衛生環境の改善） メンバー：5名 〔実施頻度：1回/月〕 チェックリスト有無：■YES □NO
		〔目的〕 職員による安全・危険防止
	規定類の作成	■防火管理規定 □臨時火気管理規定 □喫煙管理規定 ■構内工事管理規定 ■危険物管理規定 □5S管理規定
		■その他（消防計画）（危機管理マニュアル）（事業継続計画（BCP））
		定期的見直し：■YES □NO 〔見直しに関する基準・作業フロー等の明確化：□YES ■NO〕
	3S・5S・TPM・ISO	実施活動：なし 認証取得：□YES □NO 〔 〕
	緊急時連絡網	連絡網：■YES □NO マニュアル：■YES □NO
	自衛消防隊	組織：■YES □NO 〔 隊員数：昼間 352 名、夜間 12 名、休日 12 名 〕
		消火訓練実施頻度：2 回（7月、2月）/年（消火栓等の実放水：1 回/年）
	消防訓練（全従業員）	実施：■YES □NO 〔直近実施月：2026年2月6日、消火器実射：■有 □無、消火栓実放水：■有 □無、実施記録：■有 □無
		実施後アンケートまたは反省会：■有 □無、避難訓練の定期的実施：■有 □無、緊急時対応訓練：■有 □無
		従業員の安全・防災教育に関する年間計画：■有 □無
	喫煙管理	□喫煙場所指定 □喫煙時間指定 ■その他（敷地内全面禁煙） 吸殻専用金属製蓋付容器で回収：□YES □NO
	厨房施設	■YES □NO 〔建物名称：本館棟、調理・洗濯棟 熱源：LPガス 〕
	構内工事管理	事前許可制制度：■YES □NO “火気使用中”等の表示：■YES □NO 安全教育、工事中の立会い、安全確認等：■YES □NO
	ストーブ使用	□YES ■NO 〔 使用場所： 〕
	焼却施設	□YES ■NO
	構内警備	警備員常駐：■YES □NO
		人数：昼間 4名、夜間 3名、休日 3名 巡回頻度：8回/日
		巡回警備に巡回時計やタイムレコーダーを使用：■YES □NO 巡回日誌などの巡回記録を保存：■YES □NO
	機械警備	□YES ■NO
		警備会社名： 〔警備時間 □常時 □夜間のみ □休日のみ □その他（ 〕〕
	防犯機器設置	■YES □NO 〔機器の名称：防犯カメラ映像を警備室のモニターにて監視 設置個所：駐車場、外来 〕
	防火戸、防火シャッター等	有資格者定期点検の実施：■YES □NO 〔実施頻度：年2 回 実施者：関東ホーチキ株式会社 〕
	緊急時対応方法等	■YES □NO 総括的な緊急時計画、地震緊急時計画、台風・集中豪雨緊急時計画、積雪緊急時計画
	緊急時対応訓練	■YES □NO 〔実施頻度：____/月または____/年〕
	火災事故事例収集	□YES □NO 〔担当部署： 収集の対象：〔□自社の他施設 □同業他社 □その他（ 〕〕
		〔事故事例活用方法〕
	設備管理専門部署	□YES □NO 〔部署名： スタッフ数：____名 〕
	設備点検実施状況	生産設備 〔日常点検：____回/日（担当者____） 定期点検：____回/月 〕 実施記録 □YES □NO
		電気設備 〔日常点検：____回/日（担当者____） 定期点検：____回/月 〕 実施記録 □YES □NO
		ボイラ設備 〔日常点検：____回/日（担当者____） 定期点検：____回/月 〕 実施記録 □YES □NO
	リスク所見	防火管理者として事務局管理部長を選任し、消防計画に基づく管理体制を構築。病院敷地内は全面禁煙。外部業者による臨時工事について、事前に書面（施工計画書・工事中の消防計画等）の提出を義務付け、業者との打合せ、工事中的の見回り、火気使用時の残り火確認を含めた工事終了後の点検を実施されています。また、日常的な防火活動として、防火ポスターの掲示、施設周辺の清掃、施設内の整理整頓、始業・終業時の見回りを実施されています。専任警備員が昼間4名、夜間3名常駐し、警備に当たっています。1日8回（建物内4回、屋外4回）、警備員が施設内を巡回し、結果を日誌に記録されています。構内ゲート、建物出入り口、建物内に監視カメラを設置し、本館棟の警備室でモニター監視を行っています。

MSTリスクコンサルティング株式会社

消防能力	消防用設備	■自動火災報知設備 ■屋内消火栓設備 □屋外消火栓設備 ■スプリンクラー設備 ■ハロン消火設備 ■炭酸ガス消火設備 ■動力消防ポンプ設備〔□消防ポンプ自動車 ■可搬消防ポンプ（車両に固定）□可搬消防ポンプ（車両に非固定）〕 □泡消火設備〔□固定泡 □泡ノズル □泡ヘッド〕 □その他（ 〕
	非常電源	自家発電設備または蓄電池設備設置 ■YES □NO 予備ディーゼルポンプ（バックアップ） ■YES □NO
	消防用設備点検	有資格者による定期点検：■YES □NO 〔実施頻度：2 回/年 点検業者名：関東ホーチキ株式会社 〕
	機能点検及び起動試験	■YES □NO 〔 関東ホーチキ株式会社 起動試験結果保存 □YES □NO 〕 ■自動火災報知設備機能点検（実施頻度：2回/年） ■ポンプ起動試験〔■消火栓（2 回/年） ■スプリンクラー（2 回/年） □動力消防（____回/年） □自家発電（____回/年）〕
	公設消防（最寄）	名称：熊谷消防署 江南分署 〔走行距離 3.6km（走行時間7分） ポンプ自動車台数 1台 〕
	公設消防使用水利	□貯水槽（____㎡） ■公設消火栓 ■その他（本館棟：防火水槽40㎡、新館棟：同80㎡、治療棟：同40㎡、A病棟：同55㎡、公舎：同40㎡）
	火災通報装置	□YES ■NO 〔（Noの場合）事務所や守衛室などに通報要領を掲示 ■YES □NO〕
	提供情報	危険物施設、消防水利設置状況。構内の建物・設備配置等公設消防に提供すべき情報 ■YES □NO
	リスク所見	スプリンクラーポンプ能力：吐出量900ℓ/min×全陽程90m×出力22kw×貯水量16㎡（本館棟）、吐出量720ℓ/min×全陽程106m×出力22kw×貯水量15.4㎡（新館棟）、吐出量600ℓ/min×全陽程63m×出力18.5kw×貯水量56㎡（治療棟）、吐出量900ℓ/min×全陽程76m×出力18.5kw×貯水量30㎡（A病棟） 自動火災報知器の受信盤設置場所は守衛所、エネルギー棟、新館棟。型式はP型1級。受信盤近くに緊急連絡網を掲示するとともに、モニターにより火災発生を瞬時に特定でき、警報と同時に消防署へ連絡。スプリンクラー・自動火災報知設備とも、関東ホーチキ株式会社により2回/年の保守点検を実施。 エネルギー棟（ボイラー室、変電室、機械室、発電機室）に炭酸ガス消火設備、新病歴庫にハロン1301消火設備、構内全域に消火器（粉末ABC）425本を配備
ユーティリティ設備	エアコンプレッサー	■YES □NO 〔設置場所： 設置台数：レシプロ型 4 台、スクリュウ型 ____台、吐出エア圧力 8.5_kg/cm2〕 使用目的：□作業用 □計装用 ■その他（医療用） 予備設備：□有 □無
	ボイラー	■YES □NO （※1下記リスク所見に記載） 設置状況：型式____ 使用目的____ 燃料____ 使用状況____ 定格蒸発量____kg/hr 常用蒸発量____kg/hr
	自家発電設備	設置台数：9 台 容量 1000 KW 他（連続稼働時間：本館用約100時間超） 設置場所：※下記リスク所見に記載 使用目的：□防災設備用 □作業設備用 ■その他（非常用電源）
	特高変電所	受電方式：□1回線 ■2回線 □その他（ ） 設置場所：※2下記（設備）電気設備に記載 受電電圧：____KV 合計容量：____kVA 売電契約電力：____kVA
	工業用水	給水源：□公設水道 □井戸 □その他（ ） 使用水量：____㎡/h 水圧____kg/cm2
	ガス	種類：■都市ガス（ガス発電機用、空調用、給湯用） ■LPガス（調理用、給湯用） ガス漏洩検知設備：■有 □無 緊急遮断弁：■有 □無
	電算機（EDP）施設	リース設備：□YES ■NO 主な使用目的：□生産管理 □商品管理 □経理管理 ■その他（電子カルテシステム等サーバ室） UPS（無停電電源装置）またはCVCF（定電圧定周波装置）の設置：■UPS □CVCF □無 データバックアップ（定期的）作成：■YES □NO 保管場所：□電算室内 ■その他（ ）
火災事故歴	罹災経験（過去5年間）	■YES □NO 事故の種類：□火災・爆発 □落雷 ■風ひょう雪災 □水災 □地震 □その他（ ） 〔事故の概要（保険金請求無も含める）〕 強風による倒木でフェンス破損（事故日2024年2月27日）
事故防止策 その他	リスク所見	【ボイラー5基】エネルギー棟：3基/内2基が炉筒煙管式、燃料：灯油、用途：給油・暖房・加湿、1基が貫流式、燃料：都市ガス、用途：滅菌・加湿） 新館棟：2基/貫流式、燃料：都市ガス、用途：滅菌・加湿 【自家発電機設置場所】エネルギー棟2階発電機室：ガスタービン発電機（非常用/1000KVA）、新館棟1階発電機室：ディーゼル発電機（非常用/750KVA）、治療棟地下発電機室：ディーゼル発電機（非常用/200kVA）、機械棟発電機室：ディーゼル発電機（非常用/150KVA）、実験棟屋外：ディーゼル発電機（非常用/40KVA）、発電機ヤード：ガスエンジン発電機×4基（常用/370KW×2基、非常用/700KW×2基） ボイラー装置や自家発電設備の燃料として、灯油、重油、軽油等の引火性の危険物を使用されています。
	落雷対策	
	風災対策	
（設備）	電気設備	【受変電設備】自家発電設備は、毎年1回総合点検と負荷試験を実施。 エネルギー棟2階電気室（屋内キュービクル/4155kVA）、新館棟1階電気室（屋内キュービクル/2650KVA）、治療棟地下階電気室（屋内キュービクル/1029KVA）、機械棟電気室（1500KVA）、実験棟（屋外キュービクル/245KVA）、汚水処理場（屋内キュービクル/115KVA）
	給排水設備	非常時の断水対策として、災害用給水設備（受水槽20㎡、自家発電設備、給水ポンプ）を設置されています。
	空調設備	

【施設のリスク情報】

サイト概要	サイト名	小児医療センター（埼玉県さいたま市中央区新都心1-2:さいたま新都心第8－1A街区）
	操業開始年月	2016年12月
	従業員数(医師・看護師等を含)	1,171 名（2026年2月現在）
	就業形態	①稼働日数: 7日/週 ②管理部門: 8時30分～ 17時15分
		③製造部門: □交替なし □2交代制 □3交代制〔勤務時間: 時～ 時 名、時～ 時 名、時～ 時 名〕
	施設周囲	東側: 連絡通路（距離 ーm） 西側: シティテラス埼玉（距離 35m） 南側: 公道（距離 ーm） 北側: さいたま赤十字病院（距離 ーm）
	リスク所見	構内建物は小児医療センター1棟で鉄筋コンクリート造り(2016年築:免震構造)、小児医療を専門とした医療機関です。隣接するさいたま赤十字病院と緊密な連携を行うことで高度医療体制を構築されています。情報管理規定を作成し、入退室管理や職員教育等を徹底されBCP(事業継続計画)を作成されています。入院施設を有する大型医療機関のため1年を通じて職員が無人となる時間帯はありません。
防火管理	防火管理統括部署	部署名: 事務局 防火管理者役職名: 管理部管財担当
	専門組織・委員会	委員会名: 災害対策委員会（54名） 〔開催頻度: 必要時〕 議事録保存: ■YES □NO
		[具体的協議項目・決定事項など]
		(開催日(直近): 2025年10月15日)
	防災訓練計画協議・報告	
	「安全管理方針」など	□有 ■無 [名称: _____ [作成部署: _____]
	職場パトロール	名称: 職場巡視(職場衛生環境の改善) メンバー: 5名 [実施頻度: 1回/月] チェックリスト有無: ■YES □NO
		[目的] 現場に災害の危険がないか等の確認
	規定類の作成	■防火管理規定 □臨時火気管理規定 □喫煙管理規定 □構内工事管理規定 □危険物管理規定 □5S管理規定
		□その他（ ）（ ）（ ）
		定期的見直し: ■YES □NO [見直しに関する基準・作業フロー等の明確化: ■YES □NO] ※消防計画の直近見直実施日: 2025年6月12日
	3S・5S・TPM・ISO	実施活動: TQM推進室 認証取得: □YES □NO [_____]
	緊急時連絡網	連絡網: ■YES □NO マニュアル: ■YES □NO
	自衛消防隊	組織: ■YES □NO [隊員数: 昼間 352 名、夜間 12 名、休日 12 名]
		消火訓練実施頻度: 2 回(7月、2月)/年 (消火栓等の実放水: 1 回/年)
	消防訓練(全従業員)	実施: ■YES □NO [直近実施月: 2025年10月3日、消火器実射: ■有 □無、消火栓実放水: ■有 □無、実施記録: ■有 □無
		実施後アンケートまたは反省会: ■有 □無 避難訓練・新入教育時防災訓練: ■有 □無 その他緊急時対応訓練の有無: □有 ■無
	従業員の安全・防災教育	年間計画作成: □YES ■NO
	喫煙管理	□喫煙場所指定 □喫煙時間指定 ■その他(敷地内全面禁煙) 吸殻専用金属製蓋付容器で回収: □YES □NO
	厨房施設	■YES □NO [建物名称: 本棟地下1階 熱源: 電気、都市ガス]
	構内工事管理	事前許可制制度: ■YES □NO “火気使用中”等の表示: □YES ■NO 工事監督体制の明確化: ■YES □NO
	ストーブ使用	□YES ■NO [使用場所: _____]
	焼却施設	□YES ■NO
	構内警備	警備員常駐: ■YES □NO
		人数: 昼間 4名、夜間 3名、休日 3名 巡回頻度: 8回/日
		巡回警備に巡回時計やタイムレコーダーを使用: □YES ■NO 巡回日誌などの巡回記録を保存: ■YES □NO
	機械警備	□YES ■NO
		警備会社名: _____ [警備時間 □常時 □夜間のみ □休日のみ □その他(_____)]
	防犯機器設置	■YES □NO [機器の名称: 設置個所:]
	防火戸、防火シャッター等	有資格者定期点検の実施: ■YES □NO [実施頻度: 年 2 回 実施者: 関東ホーチキ(株)]
	緊急時対応方法等	■YES □NO 緊急時電話連絡網、緊急時対応マニュアル(防火管理規定(消防計画)、総合的な緊急時計画)の整備
	緊急時対応訓練	■YES □NO [実施頻度: ____/月または 2 /年]
	火災事故事例収集	□YES ■NO [担当部署: _____ 収集の対象: [□自社の他施設 □同業他社 □その他(_____)]
		[事故事例活用方法]
	設備管理専門部署	□YES □NO [部署名: _____ スタッフ数: _____ 名]
	設備点検実施状況	生産設備 [日常点検: ____回/日(担当者: _____) 定期点検: ____回/月] 実施記録 □YES □NO
		電気設備 [日常点検: 1 回/日(担当者 中央監視) 定期点検: 1 回/月] 実施記録 ■YES □NO
		ボイラ設備 [日常点検: ____回/日(担当者 東京ガスエンジニアリングソリューションズ) 定期点検: ____回/月] 実施記録 □YES □NO
	リスク所見	事務局管財担当を防災管理者に選任し、防災活動を推進。消防計画書、臨時火気しよう管理規定、防災マニュアル、危険物に関する管理規定を作成しています。構内は全面禁煙、日常的な防火活動として、工事中の見回り、工事終了後の見回り、施設周辺の清掃、施設内整理整頓を実施しています。警備員は昼間4名、夜間4名が常駐しており、適宜巡回警備を実施、巡回警備日誌を毎日提出、内容確認されています。年2回、全職員を対象とした防災訓練(火災、地震を指定した初動対応、水平避難訓練、消火体験訓練)を実施されています。加えて、年1回、BCP訓練として、大規模災害を想定した模擬訓練を実施、万ーに備え、備蓄品(患者様用200名/3日分、職員用200名/5日間)を常備されています。

MSTリスクコンサルティング株式会社

消防能力	消防用設備	■自動火災報知設備 ■屋内消火栓設備 □屋外消火栓設備 ■スプリンクラー設備 □ハロン消火設備 □炭酸ガス消火設備 □動力消防ポンプ設備 [□消防ポンプ自動車 □可搬消防ポンプ(車両に固定) □可搬消防ポンプ(車両に非固定)] ■泡消火設備 [□固定泡 □泡ノズル ■泡ヘッド] ■その他(不活性ガス(窒素))
	非常電源	自家発電設備または蓄電池設備設置 ■YES □NO ガスタービン(灯油) ■YES □NO
	消防用設備点検	有資格者による定期点検: ■YES □NO [実施頻度: 2回/年 点検業者名: 関東ホーチキ(株)]
	機能点検及び起動試験	■YES □NO [担当部署: 関東ホーチキ(株) 起動試験結果保存 ■YES □NO]
		■自動火災報知設備機能点検(実施頻度: 2回/年)
		■ポンプ起動試験 [■消火栓(2回/年) ■スプリンクラー(2回/年) ■動力消防(2回/年) ■自家発電(2回/年)]
	公設消防(最寄)	名称: さいたま市中央消防署 [走行距離 1.9km(10分) ポンプ自動車台数__台]
	消防使用水利	■貯水槽(40 m ³) ■公設消火栓 ■その他(合計取水箇所2箇所 152m ³)
	火災通報装置	■YES □NO [(Noの場合)事務所や守衛室などに通報要領を掲示 □YES □NO]
	提供情報	危険物施設、消防水利設置状況。構内の建物・設備配置等公設消防に提供すべき情報 □YES ■NO
ユーティリティ設備	リスク所見	スプリンクラーポンプ能力: 吐出量1.1m ³ /min×全揚程152.9m×出力45kw(貯水槽92.2m ³) 屋内消火栓ポンプ能力: 吐出量1.1m ³ /min×全揚程57m×出力15.0kw(貯水層81.0m ³) 自動火災報知設備: 受信盤の設置場所は1階防災センター(昼夜ともに警備員による監視)。型式は複合GR型。受信盤近くに緊急連絡網の掲示。監視人の最小人数1名。その他、中央監視室、事務室、病棟スタッフステーションには受信盤と連動した発報機が設置されており、昼夜ともに職員により常時監視がなされています。
	エアコンプレッサー	■YES □NO [設置場所: _____ 設置台数: レシプロ型 3 台(スクロール)、スクリュウ型__台、吐出エア圧力 8.15_kg/cm ²] 使用目的: □作業用 □計装用 ■その他(医療用) 予備設備: □有 □無
	ボイラー	■YES □NO (※1下記リスク所見に記載)
		設置状況: 型式_____ 使用目的 給湯・暖房用 燃料 ガス 使用状況 常用 定格蒸発量 2t/h 常用蒸発量 ____kg/hr
	自家発電設備	設置台数: 4 基(常用2基、非常用2基) 容量 740_KW 用途: 常用 設置場所: _____
		使用目的: □防災設備用 □作業設備用 ■その他(照明、医療用機器)
	特高変電所	受電方式: □1回線 □2回線 ■その他(ループ式) 設置場所: _____
		受電電圧: 22_KV 合計容量: 12,000_kVA 売電契約電力: _____kVA
	工業用水	給水源: □公設水道 ■井戸 ■その他(雨水) 使用水量: ____m ³ /h 水圧 ____kg/cm ²
	ガス	種類: ■都市ガス(厨房、保育、宿泊、学校、熱源設備) □LPガス □その他() ガス漏洩検知設備: ■有 □無 緊急遮断弁: ■有 □無
電算機(EDP)施設	電算機(EDP)施設	リース設備: □YES ■NO 主な使用目的: □生産管理 □商品管理 □経理管理 ■その他(電子カルテシステム等サーバ室)
		UPS(無停電電源装置)またはCVCF(定電圧定周波装置)の設置: ■UPS □CVCF □無
		データバックアップ(定期的)作成: ■YES □NO 保管場所: □電算室内 ■その他(2階執務室内)
	火災事故歴	罹災経験(過去5年間)
		■YES □NO 事故の種類: □火災・爆発 □落雷 ■風ひょう雪災 □水災 □地震 □その他(_____)
		[事故の概要(保険金請求無も含める)]
	事故防止策 その他	強風によるガラス破損(事故日2026年1月9日)
		[罹災後に講じられた再発防止対策]
(設備)	リスク所見	ボイラー1基(貫流式、ガス、常用(作業用・暖房・給湯)。定格蒸発量2,000kg/h、伝熱面積8.42m ²)、高圧ガスボンベ置き場あり
	落雷対策	避雷針、避雷器、無停電電源を設置
	風災対策	風水害対策として浸水範囲の想定、屋上ルーバーの補強等を実施しています。
	電気設備	契約電力: 1,700KW、平均使用電力: 1,256KW、受電方式: ループ方式、受電電圧: 22.0KV、受電トランス容量: 12,000KVA、受電トランス基数: 24基
	給排水設備	
	空調設備	

【施設のリスク情報】

サイト概要	サイト名	精神医療センター（埼玉県北足立郡伊奈町大字小室字大山818番地1、2）
	操業開始年月	1990年4月
	従業員数(医師・看護師を含)	281 名（2026年2月現在）
	就業形態	①稼働日数: 日/週 ②管理部門: 時～ 時
		③製造部門: □交替なし □2交代制 □3交代制 [勤務時間: 時～ 時 名、時～ 時 名、時～ 時 名]
	施設周囲	東側: がんセンター医師公会（距離 64m） 西側: 丸山スポーツ広場管理棟（距離 90m）
		南側: 山林（距離 5m以上） 北側: 民家（距離 55m）
防火管理	リスク所見	埼玉県民のこころの健康の保持・向上、並びに精神障害者の社会復帰の支援を図る総合的な施設です。施設内の主要建物は鉄筋コンクリート造、鉄骨造りですが、相互に近接・接合しており、これらの建物間で延焼リスクがあります。病院施設の主要建物と隣接施設との間は一定程度離間しており類焼リスクは限定的です。また、主要建物にはスプリンクラー設備が設置されており火災リスクを大きく低減させています。病院エリアの主要建物で無人となる時間帯はありません。機械警備は実施されていませんが、施設内に守衛室を3か所設置、常時警備員を配置して警戒、建物外に監視カメラを設置されています。
	防火管理統括部署	部署名: 事務局管財・用度担当 防火管理者役職名: 事務局副局長（4名）
	専門組織・委員会	委員会名: 防災対策委員会 [開催頻度: 2 回/年 参加人数: 18 名、] 議事録保存: ■YES □NO
		[具体的協議項目・決定事項など]
		(開催日(直近): 2025年9月22日 防災訓練の実施要領について
	「安全管理方針」など	名称: なし [作成部署:]
	職場パトロール	名称: 職場巡視(職場衛生環境の改善) メンバー: 5名 [実施頻度: 1回/月] チェックリスト有無: ■YES □NO
		[目的] 5Sを中心に安全確認全般
	規定類の作成	■防火管理規定 □臨時火気管理規定 □喫煙管理規定 □構内工事管理規定 □危険物管理規定 □5S管理規定
		■その他（事故報告制度(消火器使用報告を含む)、(防火管理規定(消防計画))、(設備管理規定)
		定期的見直し: □YES ■NO 見直しに関する基準・作業フロー等の明確化: □YES ■NO
	3S・5S・TPM・ISO	実施活動: 安全パトロール 認証取得: □YES ■NO []
	緊急時連絡網	連絡網: ■YES □NO マニュアル: ■YES □NO
	自衛消防隊	組織: ■YES □NO [隊員数: 昼間 160 名、夜間 12 名、休日 12 名]
		消火訓練実施頻度: 2 回(10月、3月)/年 (消火栓等の実放水: 1 回/年)
	消防訓練(全従業員)	実施: ■YES □NO [直近実施月: 2025年10月17日、消火器実射: ■有 □無、消火栓実放水: ■有 □無、実施記録: ■有 □無
		実施後アンケートまたは反省会: ■有 □無 避難訓練の定期的実施: ■有 □無
	従業員の安全・防災教育	新入教育時防災訓練／教育: ■有 □無 その他緊急時対応訓練の実施: ■有 □無 年間計画作成: ■有 □無
	喫煙管理	■喫煙場所指定(特定屋外喫煙場所) □喫煙時間指定 □その他() 吸殻専用金属製蓋付容器で回収: □YES □NO
	厨房施設	■YES □NO [建物名称: 新館 熱源: 電気、都市ガス]
	構内工事管理	事前許可制制度: □YES ■NO “火気使用中”等の表示: ■YES □NO 工事監督体制の明確化: □YES ■NO
	ストーブ使用	□YES ■NO [使用場所: なし]
	焼却施設	□YES ■NO
	構内警備	警備員常駐: ■YES □NO
		人数: 昼間 4名、夜間 3名、休日 3名 巡回頻度: 20回/日
		巡回警備に巡回時計やタイムレコーダーを使用: □YES ■NO 巡回日誌などの巡回記録を保存: ■YES □NO
	機械警備	■YES □NO
		警備会社名: [警備時間 ■常時 □夜間のみ □休日のみ □その他()]
	防犯機器設置	■YES □NO [機器の名称: 監視カメラ5台 設置個所: 7病棟外周部]
	防火戸、防火シャッター等	有資格者定期点検の実施: ■YES □NO [実施頻度: 2回/年 実施者: 藤岡防災設備(株)]
	緊急時対応方法等	■YES □NO 総括的な緊急時計画、地震緊急時計画、台風・集中豪雨緊急時計画
	緊急時対応訓練	■YES □NO [実施頻度: /月または 1/年]
	火災事故事例収集	■YES □NO [担当部署: 収集の対象: [□自社の他施設 □同業他社 □その他()]
		[事故事例活用方法]
	設備管理専門部署	□YES □NO [部署名: スタッフ数: 名]
	設備点検実施状況	生産設備 [日常点検: 回/日(担当者) 定期点検: 回/月] 実施記録 □YES □NO
		電気設備 [日常点検: 1 回/日(担当者) 定期点検: 1 回/月] 実施記録 □YES □NO
		ボイラ設備 [日常点検: 回/日(担当者) 定期点検: 回/月] 実施記録 □YES □NO
	リスク所見	防火管理者として、事務局副局長兼管理業務部長を選任し消防計画に基づく管理体制を構築されています。施設・設備の管理状況は良好で、精神保健福祉センターに帰属する社会復帰棟および自立訓練棟も含め、施設を一体として包括的に管理されています。外部業者による工事実施の際、事前許可、打ち合わせや作業中の監視、作業後の安全確認等が励行され、全域で清掃・整理整頓が徹底されています。火災を想定した訓練を年2回定期的に実施、自衛消防隊および入院入所者を対象とした防災教育についても年3回定期的に実施されています。

MSTリスクコンサルティング株式会社

消防能力	消防用設備	■自動火災報知設備 ■屋内消火栓設備 ■屋外消火栓設備 ■スプリンクラー設備 ■ハロン消火設備 □炭酸ガス消火設備 □動力消防ポンプ設備 [□消防ポンプ自動車 □可搬消防ポンプ(車両に固定) □可搬消防ポンプ(車両に非固定)] □泡消火設備 [□固定泡 □泡ノズル □泡ヘッド] ■その他(窒素ガス消火設備)]	
	非常電源	自家発電設備または蓄電池設備設置 ■YES □NO 非常用ディーゼルエンジン(燃料: 灯油、最大114時間稼働) ■YES □NO	
	消防用設備点検	有資格者による定期点検: ■YES □NO [実施頻度: 2回/年 点検業者名: 藤岡防災設備(株)]	
	機能点検及び起動試験	■YES □NO [担当部署: 事務局管財・用度担当 起動試験結果保存 ■YES □NO] ■自動火災報知設備機能点検(実施頻度: 2回/年) ■ポンプ起動試験 [■消火栓(2回/年) ■スプリンクラー(2回/年) □動力消防(回/年) ■自家発電(2回/年)]	
	公設消防(最寄)	名称: 伊奈町消防本部 [走行距離 2.0km(4分) ポンプ自動車台数 2 台]	
	公設消防使用水利	■貯水槽(100 m) □公設消火栓 □その他()	
	火災通報装置	□YES ■NO [(Noの場合)事務所や守衛室などに通報要領を掲示 ■YES □NO]	
	提供情報	危険物施設、消防水利設置状況。構内の建物・設備配置等公設消防に提供すべき情報 ■YES □NO	
	リスク所見	スプリンクラーポンプ能力:【エネルギー棟】吐出量0.8㎡/分×全揚程58.0m×出力15kw、貯水量16 ㎡ 藤岡防災設備(株)による2回/年の保守点検を実施。自動火災報知器(警戒区域80)の型式はGR型1級、受信盤は本館警備室にて最小時1名により常時監視され、モニターにより火災発生(場所)が瞬時に特定可能。藤岡防災設備(株)による2回/年の保守点検が実施されている。カルテを保管する病歴室には、不活性ガス消火設備およびハロゲン化物消火設備を配備。自動火災報知機の副受信盤はナースセンター等に6か所設置。	
	ユーティリティ設備	エアコンプレッサー	■YES □NO [設置場所: 設置台数: 2 基(レシプロ型2台、吐出エア圧力8.5kg/cm2)] 使用目的: □作業用 □計装用 ■その他(医療用) 予備設備: □有 □無
ボイラー		■YES □NO 2基 自主点検: 12回/年 設置状況: 型式 炉筒煙管式 使用目的 給湯用 燃料 使用状況 常用 定格蒸発量 6.100kg/hr	
自家発電設備		設置台数: 3 台 容量 460 kw □常用 ■非常用 設置場所: 本館250kVA、新館130kVA、7病棟8kVA) 使用目的: □防災設備用 □作業設備用 ■その他(消防設備、非常照明、コンセント、動力等) 非常用電源設備点検: 2 回/年	
特高変電所		受電方式: ■1回線 □2回線 ■その他(がんセンターから受電) 設置場所: 受電電圧: 6.6 KV 合計容量: kVA 売電契約電力: kVA	
工業用水		給水源: □公設水道 □井戸 □その他() 使用水量: ㎡/h 水圧 kg/cm2	
ガス		種類: ■都市ガス □LPガス □その他() 用途: 暖房、給油、調理 ガス漏洩検知設備: ■有 □無 緊急遮断弁: ■有 □無	
電算機(EDP)施設		リース設備: □YES ■NO 主な使用目的: □生産管理 □商品管理 □経理管理 ■その他(電子カルテシステム等サーバ室) UPS(無停電電源装置)またはCVCF(定電圧定周波装置)の設置: ■UPS □CVCF □無 データバックアップ(定期的)作成: ■YES(365 回/年) □NO 保管場所: □電算室内 ■その他(サーバー室内)	
火災事故歴		罹災経験(過去5年間)	■YES □NO 事故の種類: ■火災・爆発 □落雷 □風ひょう雪災 □水災 □地震 □その他() [事故の概要(保険金請求無も含める)] 過去5年以内の罹災履歴なし。 看護寮304号室において、ガスコンロ付近から出火(事故日2022年2月6日) [罹災後に講じられた再発防止対策]
		事故防止策 その他	リスク所見 過去落雷(年間落雷日数3日程度)による被害歴はなし
		落雷対策	給水塔に避雷針、主要PC設備に対し、無停電電源装置を設置。
	風災対策	台風シーズン前には風災害を防止するため、建物の補強や屋外設備等の固定など構内全域の安全点検(屋根の損傷・老朽化の定期点検等)が行われている。また、重要なメインケーブルは地下に埋設されている。ガラス開口部の飛散防止装置(強化ガラス)実施済。	
	(設備)	電気設備 自家発電設備を3基設置 給排水設備 空調設備	